

学校運営協議会 地域就労・生活関係部会 会議録

開催日時	令和4年10月6日(木) 11:10~11:50	
会場	本校会議室	
出席者数	学校評議員 5名	学校 2名
出席者氏名	森 朋彦 (今金町役場 総務財政課長) 戸室 孝俊 (社会福祉法人光の里 施設長) 小林 洋伸 (今金町商工会 事務局長) 齋藤 忠 (一般社団法人i・スマイル理事長) 今西 菊美 (相談支援事業所相談室ひかり 相談員)	・教務主任 山本 ・進路指導部長 田中

記録

協議の柱

(1) 本校における進路指導、卒後指導の部分を共有し、今金町との関わりの中で本校卒業後今金町に就労していくための今後の体制整備について(就労支援事業、i・スマイル、新事業、その他)  
・田中教諭よりパワーポイント資料説明。

(2) 在籍中に付けておかなければいけない力、求められる人材について

○生活する力について

今西さん「学校で学んできたこと以外のことを要求されることや経験してこなかったことに対して壁にぶつかってしまい、混乱している様子が見られる。(GHに入所すると違う面がかなり見られる。)」

戸室さん「社会生活が始まると、金銭管理が必要になってくる。携帯電話(使用方法等)が生活の部分で上手くいくかいかないか。携帯電話の使用に振り回される。その日常生活の乱れが仕事にも影響する。」

○働く力

森さん「職場として目標をもたせてあげられると、定着につながるのではないかと感じる。先を見通す経験がない分、支払い等が滞ることがある。(お金がないわけではなく、分かっている。)そういったところも誰かが支えてあげられると良い。」

齋藤さん「iスマイルとしては、農家関係のため、繁忙期と違う時期があり、仕事が続くと欠勤してしまう。説明しても理解できていないことがある。先輩、後輩での思いやりがあまり感じられない。」

小林さん「体験活動ができない大変さが学校にはある。その人の情報を共有しないと指導がバラバラになる。学校での評価と社会での評価の差。この差については、生徒がちょっとしたトラブルでつまづいてしまうことがあり。生徒たちは自分のことを理解しているのか……。過信している様子が見られる。できないことを理解させないといけない。一般就労している生徒より福祉的就労した生徒の方が目標をもって取り組むことができているのではないかと。一般就労は仕事に就くことがゴールになってしまっているのではないかと。」

今西さん「一般就労したことが到達点になってしまっている。ステップアップをとばしてしまうことで、自分が何をしたらいいのか分からなくなる。そのため、興味のある方へいってしまう。(携帯電話等)」

齋藤さん「大人と生徒たちとの感覚のズレがここ数年ある。どうしても甘くなってしまうことがあった。そのさじ加減が難しい。反省でもあるが、悩みでもある。」

戸室さん「どこまで踏み込むか難しいところではある。そのため、情報共有が必要。(成育歴等)」

今西さん「否定されてきた子供たちが多く中で、どうしても甘くなってしまう。最初は、認めてあげて気持ち託してもらう必要がある。生活の場で本音を聞いてあげる必要がある。弱音をはける場所が必要。生活する場では、その人との関係性を築くことが大切。」

今西さん「GHから出たら、サービスが切れると思っっている方が多い。いつでもサポートできる場所であることを生徒たちに伝えてもらいたい。相談室はどういったところなのかをもっと伝えてもらえるとうれしい。」

学校運営協議会 地域就労・生活関係部会 会議録

開催日時	令和4年10月6日(木) 11:10~11:50	
会場	本校会議室	
出席者数	学校評議員 5名	学校 2名
出席者氏名	委員 D (今金町役場 総務財政課長) 委員 E (社会福祉法人光の里 施設長) 委員 F (今金町商工会 事務局長) 委員 G (一般社団法人 i・スマイル理事長) 委員 H (相談支援事業所相談室ひかり相談員)	・教務主任 山本 ・進路指導部長 田中

記録

協議の柱

(1) 本校における進路指導、卒後指導の部分を共有し、今金町との関わりの中で本校卒業後今金町に就労していくための今後の体制整備について(就労支援事業、i・スマイル、新事業、その他)  
・田中教諭よりパワーポイント資料説明。

(2) 在籍中に付けておかなければいけない力、求められる人材について

○生活する力について

委員 H 「学校で学んできたこと以外のことを要求されることや経験してこなかったこと壁にぶつかってしまい、混乱している様子が見られる。(GHに入所すると違う面がかなり見られる。)」

委員 E 「社会生活が始まると、金銭管理が必要になってくる。携帯電話(使用方法等)が生活の部分で上手くいくかいかないか。携帯電話の使用に振り回される。その日常生活の乱れが仕事にも影響する。」

○働く力

委員 D 「職場として目標をもたせてあげられると、定着につながるのではないかと感じる。先を見通す経験がない分、支払い等が滞ることがある。(お金がないわけではなく、分かっている。)そういったところも誰かが支えてあげられると良い。」

委員 G 「i・スマイルとしては、農家関係のため、繁忙期と違う時期があり、仕事が続くと欠勤してしまう。説明しても理解できていないことがある。先輩、後輩での思いやりがあまり感じられない。」

委員 F 「体験活動ができない大変さが学校にはある。その人の情報を共有しないと指導がバラバラになる。学校での評価と社会での評価の差。この差については、生徒がちょっとしたトラブルでつまづいてしまうことがあり。生徒たちは自分のことを理解しているのか……。過信している様子が見られる。できないことを理解させないといけない。一般就労している生徒より福祉的就労した生徒の方が目標をもって取り組むことができているのではないかと感じる。一般就労は仕事に就くことがゴールになってしまっているのではないかと感じる。」

委員 H 「一般就労したことが到達点になってしまっている。ステップアップをとばしてしまうことで、自分が何をしたらいいのか分からなくなる。そのため、興味のある方へいってしまう。(携帯電話等)」

委員 G 「大人と生徒たちとの感覚のズレがここ数年ある。どうしても甘くなってしまうことがあった。そのさじ加減が難しい。反省でもあるが、悩みでもある。」

委員 E 「どこまで踏み込むか難しいところではある。そのため、情報共有が必要。(成育歴等)」

委員 H 「否定されてきた子供たちが多い中で、どうしても甘くなってしまう。最初は、認めてあげて気持ちを託してもらうことが必要。生活の場で本音を聞いてあげる必要がある。弱音をはける場所が必要。生活する場では、その人との関係性を築くことが大切。」

委員 H 「GH から出たら、サービスが切れると思っている方が多い。いつでもサポートできる場所であることを生徒たちに伝えてもらいたい。相談室はどういったところなのかをもっと伝えてもらえるとありがたい。」